

カラマツツツミノガ

早春にカラマツの葉を食べる小形のミノムシ。蓑は最大長約7mm，うす茶色。葉先が赤く枯れる。しばしば多発する。



1. 蓑. 1961/5/18.



2. 食害葉. 1980/6. 虻田町.



3. 食害. 1980/6. 虻田町.

【学名】 *Coleophora longisignella*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ツツミノガ科 (Coleophoridae)

【分布】 北海道, 本州.

【生態】

幼虫が小さなときに蓑の中で越冬し，早春に若葉を食べる。蓑の中で蛹になり，6月に成虫になる。

卵は葉に産み付けられる。ふ化した小さな幼虫は葉に潜って，葉の中身を食べる。秋になると蓑を作り，越冬に入る。

発育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～	
幼虫 (越冬)	+++	+++	+++	+++
幼虫 (摂食・成長)		..	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	..		
蛹			..◇	..						

成虫・卵			..○○..					
------	--	--	--------	--	--	--	--	--

【被害と防除】

カラマツ林でしばしば多発するが、たいてい1～2年で終息する。食害は春に目立ち、林は一時的に赤くなる。しかし、1ヶ月足らずで緑に戻る。食害時期が葉の伸長初期なので、その後、食べ残された根元の緑の部分が伸びてくる。また、5月末からは長枝葉が展開する。

食害による木の著しい衰弱や枯れは例がない。また、穿孔虫などによる二次被害の記録もない。防除は普通必要とされない。

【文献】

- *1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場報告, 22: 85-129. (分類, 形態, 生態) .
- 1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病害虫獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真) .
- *1991. 東浦康友. カラマツツツミノガが札幌に発生. 光珠内季報, 84: 20-21. (過去の被害記録, 生態や被害などの概要)
- 1994. 山家敏雄. カラマツツツミノガ. 小林富士雄, 竹谷昭彦, 編集, 森林昆虫, 総論・各論: 320-321. (形態, 生態など)

*の文献は北海道立林業試験場ホームページの「北海道立林業試験場・研究成果文献データベース」で見ることができます。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

カラマツツツミノガ shogarui/karatutu/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/11.

musi1.jpg

「写真1」上条一昭, 北海道立林業試験場, 1961.

higaiyo.jpg

「写真2～3」鈴木重孝, 北海道立林業試験場, 1980.